

病害虫発生予報 第 6 号

(向こう 1 か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地 域	発生量(平年比)	発生時期	備考
水 稲	穂いもち	全域	やや少	並	
	紋枯病	全域	並～やや多	並	
	白葉枯病	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウンカ	全域	やや少	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	多	並	
大 豆	子実害虫類	全域	やや多	並	
りんご	褐斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並～やや多	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並～やや早	
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
な し	うどんこ病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	

も も	せん孔細菌病	全域	並	並	
	コスカシバ	全域	並	並	
ぶどう	べと病	全域	並	並	
	黒とう病	全域	並	並	
かき	うどんこ病	全域	やや多	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	円星落葉病	全域	並	並	
	カキクダアザミウマ	全域	並	並	
	カキノヘタムシガ	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
きゅうり	フジコナカイガラムシ	全域	並	並	
	疫病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
果菜類(きゅうり、トマト等)	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
	ウイルス性病害	全域	並	並	
	アザミウマ類	全域	やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並	
アブラナ科野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	黒腐病	全域	並	並	
	コナガ	全域	並～やや少	並	
はくさい	ピシウム腐敗病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
レタス	すそ枯病	全域	並～やや多	並	
	べと病・菌核病・灰色かび病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	

	軟腐病・腐敗病	全域	並	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並～やや多	並	
	斑点病	全域	並	並	
ねぎ	黒斑病・葉枯病	全域	並～やや多	並	
	べと病	全域	並	並	
野菜・花き 共通	オオタバコガ	全域	やや多	並	
	ヨトウガ類	全域	並	並	
	ハモグリバエ類	全域	並～やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並	
	アザミウマ類	全域	やや多	並	
	ハダニ類	全域	並～やや多	並	

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや常時発生のもをを示す。
※地域指定がある場合は、その地域以外は、発生量、発生時期とも「並」を示す。

Ⅱ 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和8年9月24日発表）

○関東甲信地方【9月26日～10月25日】

天気は数日の周期で変わるでしょう。

○関東甲信地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の見通し

区 分	見通し	予想される出現確率（％）		
		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	高 い	10	40	50
降 水 量	平年並	30	40	30
日照時間	平年並み	30	30	40

2 予報の根拠にかかる気象要因

（＋）は発生を増加させる要因、（－）は発生を減少させる要因を示す。

Ⅲ 水 稻

1 穂いもち

（1）予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並

（2）予報の根拠
8月上旬の巡回調査における葉いもち発病株率及び発病度は、全般的に平年と比べ低かった。

（3）防除上の留意点
発生しているほ場からは、自家採種を行わない。

2 紋 枯 病

（1）予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

（2）予報の根拠
①8月下旬の巡回調査における発病株率は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では平年と比べ高かった。
②7月及び8月の気温は、平年と比べ高めに推移したことから、紋枯病の発生に適した条件であった。

3 白葉枯病

（1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

（2）予報の根拠
8月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかった。

（3）防除上の留意点
①常習発生地では、発生に注意する。
②台風等の浸冠水が発生を助長する。

4 ツマグロヨコバイ

（1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

（2）予報の根拠
8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における成虫の捕獲頭数は、全般的にはほぼ平年並であった。

（3）防除上の留意点
収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

5 セジロウンカ

（1）予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並

（2）予報の根拠
①8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）における成虫の捕獲頭数は、全般的に平年と比べ少なかった。
②県下6カ所に設置した予察灯における誘殺数は、全般的に平年と比べ少なかった。
（3）防除上の留意点
収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

6 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①7月及び8月の気温は、平年と比べ高めに推移したことから、斑点米カメムシ類の発生に適した条件であった。

②8月下旬のすくい取り調査における捕獲頭数は、全般的に平年と比べかなり多かった。特に、ホタルイが多発したほ場では、発生が目立った。

③県下6カ所に設置した予察灯における誘殺数は、全般的に平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

IV 大豆

1 子実害虫類（マメシンクイガ、シロイチモジマダラメイガ、カメムシ類）

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①7月及び8月の気温は、平年と比べ高めに推移したことから、食葉性チョウ目幼虫及びカメムシ類の発生に適した条件であった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、活動は活発になると推測される。

(3) 防除上の留意点

①防除適期は子実肥大初期であるが、発生が多い場合は7～10日間隔で追加防除する。なお、9月の気温が高めで推移すると、収穫期間近まで被害が発生する場合があるので、必要に応じて9月下旬頃まで防除を行う。

②吸実性カメムシ類の生息密度は、畑の外縁部ほど高い傾向があるので、外縁部への散布は丁寧に行う。

③マメシンクイガは移動性が低く、前年に発生が多かった連作畑では被害が発生しやすいので注意する。

④収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

V りんご

1 褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月の巡回調査では、中信地域を除く県下で発病葉がみられた。

②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

①「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②前年に発生が多かったほ場、現時点で発生がみられるほ場では、収穫期までの発生状況に留意するとともに、発病葉等は適切に処分する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

8月の巡回調査の際に、北信地域の一部のほ場で、発病果の残りがみられた。また調査対象ではないほ場で、葉への新たな発病がみられた。

(3) 防除上の留意点

①秋季に発生がみられる場合があるので、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②薬剤耐性菌のまん延防止のため、殺菌剤の選択においては農業農村支援センター、JAなどの指導を受ける。

3 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

7月の巡回調査では、一部で発生がみられており、向こう1か月の気象予報でも降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

4 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①発生が継続しており、8月の巡回調査の折にも発生がやや目立つようになった。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されることから、発生はやや多くなると推測される。

(3) 防除上の留意点

①降雨が続いており、今後さらに降雨があると胞子の飛散量が増加し、翌年以降の発生の増加につながるため、園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。

②病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。

③発生の多いほ場では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 9月上旬の巡回調査では、一部でわずかに発生がみられた。
- ② 梅雨期から8月までの降水量は少なく、発生量は平年並と推測される。

6 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い

(2) 予報の根拠

- ① 9月上旬の巡回調査では、一部で発生がみられた。
- ② 気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。
- ② 突発的な降雨が続くと予想される場合は、散布間隔を10日程度に縮める。
- ③ 気温が高く、降雨によって濡れ時間が長いと、二次感染が増加する。
- ④ 発病果は、第二次伝染源となるため、除去し土中に埋めるなど適正に処理する。

7 すず点病・すず斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ② 降雨が多い場合は、9月下旬まで防除する。ただし、薬液の選択に当たっては、品種毎の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

8 キンモンホソガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、各地で食害痕（マイン）がみられ、発生量は平年並であった。
- ② 須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる成虫の8月の誘殺頭数はやや少なくなっている。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

9 スモモヒメシクイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回では、シクイムシ類による果実被害は観察されていない。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

② 須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺頭数は平年並みであった。病害虫防除部や農業農村支援センターによるフェロモントラップ調査で少なからず誘殺が認められ、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

10 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

8月下旬は、一部のほ場で10葉あたりの成若幼虫数が100頭を超えていたが、9月上旬の巡回調査では広くナミハダニ、リンゴハダニの発生がみられるものの、発生数が落ち着いていたことから、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ② 殺ダニ剤の散布前に、徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布やSSの縦横走行散布等によって、樹幹内部まで薬液が十分かかるようにする。

11 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 須坂市（果樹試験場）では8月は誘殺がなく、長野市のフェロモントラップではほとんど誘殺がない。
- ② 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ② 葉が果実に接していると、接触部の果面が食害されることがあるため、早めに摘葉を行う。

VI なし

1 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査まで発生が認められず、平年並の発生量と考えられる。

2 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査まで、これまでほとんど発生がみられておらず、平年並の発生量と

考えられる。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、必要に応じて防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

3 クワコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査ほで、ほとんど寄生がみられておらず、平年並の発生量と考えられる。

(3) 防除上の留意点

①発生が目立つ園では、主枝等に誘引バンド（紙製の米袋や布等）を巻き、越冬虫が活動を始める前の冬季（12月から2月まで）のうちにバンドを取り外して、バンドとその下にいる越冬虫を処分する。

②「県防除基準」を参照し、必要に応じて防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

4 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は昨年よりもやや少ない。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、必要に応じて防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査ほで果実被害が認められず、平年並の発生量と考えられる。

②高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップ誘殺消長から、ほぼ平年並の発生時期と考えられる。

(3) 防除上の留意点

①ナシヒメシンクイの被害が「豊水」や「南水」にもみられることがあるので追加防除を検討する。

②「県防除基準」を参照し、必要に応じて防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

6 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査ほで果実被害等が認められず、平年並の発生量と考えられる。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

Ⅶ も も

1 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査で、対象ではないが疑われる症状がみられた。向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①晩生種の果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ず取り除き、適切に処分等を行う。

②「県防除基準」を参照し、発生ほ場では収穫後の防除を必ず実施する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

③台風の襲来など強風と降雨により感染量が増えるので、気象情報にも注意する。

2 コスカシバ

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

病害虫防除部が須坂市に設置したフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並である。

(3) 防除上の留意点

①成虫の発生盛期は、8月中旬～9月中旬である。

②発生園では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

Ⅷ ぶどう

1 べと病

(1) 予報の内容 発生量： 平年並 発生時期： 平年並

(2) 予報の根拠

①9月上旬の巡回調査ほ場では、南信を除く各地で発病がみられた。

②向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、葉の保護のために収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

2 黒とう病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 9月上旬の巡回調査ほ場では、発病がみられなかったが、対象外ほ場では発病が観察された。周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。
- ② 向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並と予想されており、発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、茎葉の保護のために収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ② 発生が多かったほ場では、巻きひげ等が翌年への伝染源にもなるので、必ず適切に処理する。

IX か き

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量： **やや多** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査ほでは6月上旬以降、継続して発生が続いている。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

2 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査ほで発生が認められず、平年並の発生量と考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

3 円形落葉病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査ほで発生が認められず、平年並の発生量と考えられる。

4 カキクダアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査ほで被害、寄生が認められず、平年並の発生と考えられる。

5 カキノヘタムシガ

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠

- 巡回調査ほで被害、寄生が認められず、平年並の発生と考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

6 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査ほで被害、寄生が認められず、平年並の発生と考えられる。

7 フジコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査ほで被害、寄生が認められず、平年並の発生と考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

X 野 菜

1 トマト疫病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 多湿条件で多発しやすいので、適正なかん水や換気等に努め、排水を良好にする。
- ② 「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

2 トマト灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- ① 7月上旬の巡回調査では、中信地域の施設栽培（半促成）で発生がみられたが、少発生であった。8月上旬の調査では、みられなかった。
- ② 気象要因
- 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 施設栽培では多湿条件で多発しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって、施設内の湿度低下に努める。

- ②開花後の花卉から発病しやすいので、咲き終わった花卉の除去に努める。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。
- ④薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

3 トマト輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

6月下旬の巡回調査では、北信地域の施設栽培（半促成）で発生がみられたが、8月上旬の調査では、みられなかった。

- (3) 防除上の留意点
 - ①露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。
 - ②被害茎葉が次作の伝染源となるので、ほ場外で適切に処分する。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。

4 キュウリ斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

- (3) 防除上の留意点
 - ①発病後の防除は困難であるので、「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。
 - ②被害の甚だしい葉及び果実は除去する。

5 キュウリべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、北信地域の露地栽培で発生がみられたが、少発生であった。

- (3) 防除上の留意点
 - ①下葉で発病の著しいものは摘葉する。
 - ②降雨や灌水により、地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
 - ③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。

6 キュウリうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、北信地域の施設栽培で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

- (3) 防除上の留意点
 - ①発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で防除する。その後は発生状況に応じて適宜に防除する。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

- ②多発生してからでは防除困難となるので、発病初期からの防除に努める。

7 キュウリ炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

- (3) 防除上の留意点
 - ①例年、露地栽培後半での発生が多い。
 - ②多発葉は早めに除去する。
 - ③窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

8 キュウリ褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、平年と同様に発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

- (3) 防除上の留意点
 - ①本病は、露地栽培後半の高温多雨条件で発生が多い。
 - ②発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。
 - ③ハウス栽培では高温多湿を防ぎ、多発葉は除去する。
 - ④窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

9 果菜類（きゅうり、トマト等）のウイルス性病害

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

①直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

- (3) 防除上の留意点
 - ①発病株は直ちに除去して処分する。
 - ②感染植物を吸汁したアザミウマ類及びアブラムシ類の吸汁により、健全な植物に伝染する。（アザミウマ類及びアブラムシ類の防除については、次項10及び11を参照。）
 - ③汁液伝染する恐れがあるので、畝ごとに使用するハサミを替えるなどし、汚染されたハサミにより、ほ場全体に拡がらないように注意する。

10 果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

- ①8月上旬の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、いちご（施設栽培）、南信及び中信地域のきゅうり、北信地域のトマト（施設栽培）、きゅうり（施設栽培、露地栽培）で寄生がみられ、平年と比べ発生が多かった。
- ②青色粘着トラップによる調査では、3地点中1地点（塩尻市）で平年と比べ誘殺頭数がかなり多かった。
- ③気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと

予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどし、飛び込みを防ぐ。

11 果菜類（きゅうり、トマト等）のアブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①黄色粘着トラップによる調査では、5地点中3地点（塩尻市宗賀、塩尻市洗馬、長野市）で総誘殺数が平年と比べ多かった。

②気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「防除基準」を参照し、防除する。

②露地栽培では、高温となる夏は寄生が減少する傾向があるが、施設栽培では1年中発生する。

③施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、防虫ネットを設置するなどにより飛び込みを防ぐ。

12 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因（+）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①降雨が多いと多発する。

②育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。

③発生ほ場の被害茎葉は、土壌中の病原菌密度が増加するので、すき込まない。

④「県防除基準」を参照し、防除する。

13 アブラナ科野菜の軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

7月下旬の巡回調査では、中信地域のキャベツの一部のほ場で発生がみられたが、少発生であった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②例年、この時期から発生が増加し、高温多湿条件で多発する。

14 アブラナ科野菜の黒腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

(2) 予報の根拠

巡回調査では、東信地域の一部ほ場で6月上旬にはくさい、6月下旬にブロッコリーで発生がみられたが、少発生であった。8月上旬の調査では、みられなかった。

(3) 防除上の留意点

①予防散布を基本として、「県防除基準」を参照し、防除する。

②過湿、過乾、高温期、肥料切れの場合に発生しやすい。

③雷雨などの強い降雨により作物が傷むと、細菌性病害が発生しやすくなる。

15 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや少ない** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、東信地域のブロッコリーの一部ほ場でのみ寄生がみられた。

②フェロモントラップによる誘殺頭数は、6地点中4地点（小諸市、原村、塩尻市、長野市）で平年よりも少なかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

16 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①高温期は軟腐病を併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③降雨が多いと多発する。

17 ハクサイベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で発生がみられたが、少発生であった。

(3) 防除上の留意点

①本病に感受性の高い品種の作付けはさける。

②定植直後から定期的に予防散布を実施する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④低温多湿条件のときに発生が多い。

18 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①7月下旬及び8月上旬の巡回調査では、東信地域で発生がみられ、発生ほ場数は平年と比べやや多かった。

②近年、発生が増加傾向にある。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②結球始期に重点的に防除する。

19 レタスべと病・菌核病・灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で菌核病の発生がみられたが、少発生であった。

②いずれの病害も、低温で降雨が続く時に発生が多い。

③気象要因

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②いずれの病害も、結球始期に重点的に防除する。

20 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因(+)

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②降雨が多いと多発する。

21 レタス軟腐病・腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠(+)

8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後すみやかに防除を行う。

②常発地・多発地では、排水対策を行う。

③高温多雨条件で多発する。

22 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、東信地域(露地栽培)、南信地域(雨よけ栽培)の一

部ほ場、北信地域(露地栽培)で発生がみられ、病勢が進展している。

(3) 防除上の留意点

①雨除けをすると、茎枯病の予防効果が高い。

②降雨時の泥はね等により感染するので、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。

③病茎は早期に刈り取り、ほ場外へ持ち出し、穴を掘って埋めるなど適切に処分する。

④降雨が多いと多発する。

23 アスパラガス斑点病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①降雨が多いと多発する。

②通風をよくするために立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈取る。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④定期的な防除を実施し、散布間隔が大きくあきすぎないようにする。

⑤同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

24 ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、南信地域、中信地域で黒斑病が発生し、多発ほ場もみられた。

(3) 防除上の留意点

①2次感染源となるので、被害葉をほ場内に放置しない。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③降水量が多いと多発する。

25 ねぎのべと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠(+)

8月上旬、の巡回調査では、発生はみられなかったが、周辺ほ場での発生量は平年並と推測される。

(3) 防除上の留意点

①ほ場の排水対策を行う。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③降水量が多いと多発する。

26 オオタバコガ(野菜、花き全般)

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の巡回調査では、東信、南信、中信地域のトマト（いずれも露地栽培）で果実の食入被害がみられたほか、北信地域のきゅうり（露地栽培）で寄生がみられた。

②各地に設置されたフェロモントラップによる調査では、平年と比べ誘殺頭数が多い地域（小諸市、御代田町、茅野市、富士見町、松川村、阿南町、塩尻市など）があり、7月第6半旬から急増している地域がみられる。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②結球野菜では、結球始期に重点的に防除する。

③薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

27 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査では、寄生は確認されなかった。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

28 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、きく、北信地域のきゅうり（露地栽培）、南信地域及び中信地域のねぎで寄生があり、ねぎでは多発ほ場もみられた。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①苗床での防除を徹底する。

②育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④収穫後は、残さの処分を徹底する。

29 アブラムシ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 7月下旬及び8月上旬の巡回調査では、東信地域のブロッコリー、南信地域のトマト（露地栽培）、アスパラガス（雨よけ栽培）の一部ほ場で寄生がみられた。

②黄色粘着トラップによる調査では、5地点中3地点（塩尻市宗賀、塩尻市洗馬、長野市）で平年と比べ多かった。で平年と比べ多かった。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農業はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

予想されている。

(3) 防除上の留意点

早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

30 アザミウマ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 7月下旬及び8月上旬の巡回調査では、果菜類のほか、アスパラガス（全ての巡回ほ場）、東信地域のブロッコリー、きく、中信地域のキャベツ、ねぎ、南信地域のねぎなど葉菜・花き類においても寄生があり、多発ほ場もみられた。

②青色粘着トラップによる調査では、3地点中1地点（塩尻市）で平年と比べ誘殺頭数が多かった。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①育苗期又は定植時の防除が有効である。

②早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

③アザミウマの種類によって薬剤に対する感受性が異なるので、防除を実施後に効果を確認し、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

④ほ場周辺の雑草に寄生し、野菜畑に飛び込む場合があるので、雑草防除等のほ場管理を行う。

31 ハダニ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

① 7月上旬及び8月上旬の巡回調査では、南信地域及び北信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）で寄生がみられた。

②例年、盛夏期以降に多発する。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①早期発見に努め、多発する前に「県防除基準」を参照し、防除する。

②薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

③施設などで乾燥状態が続くと多発しやすい。